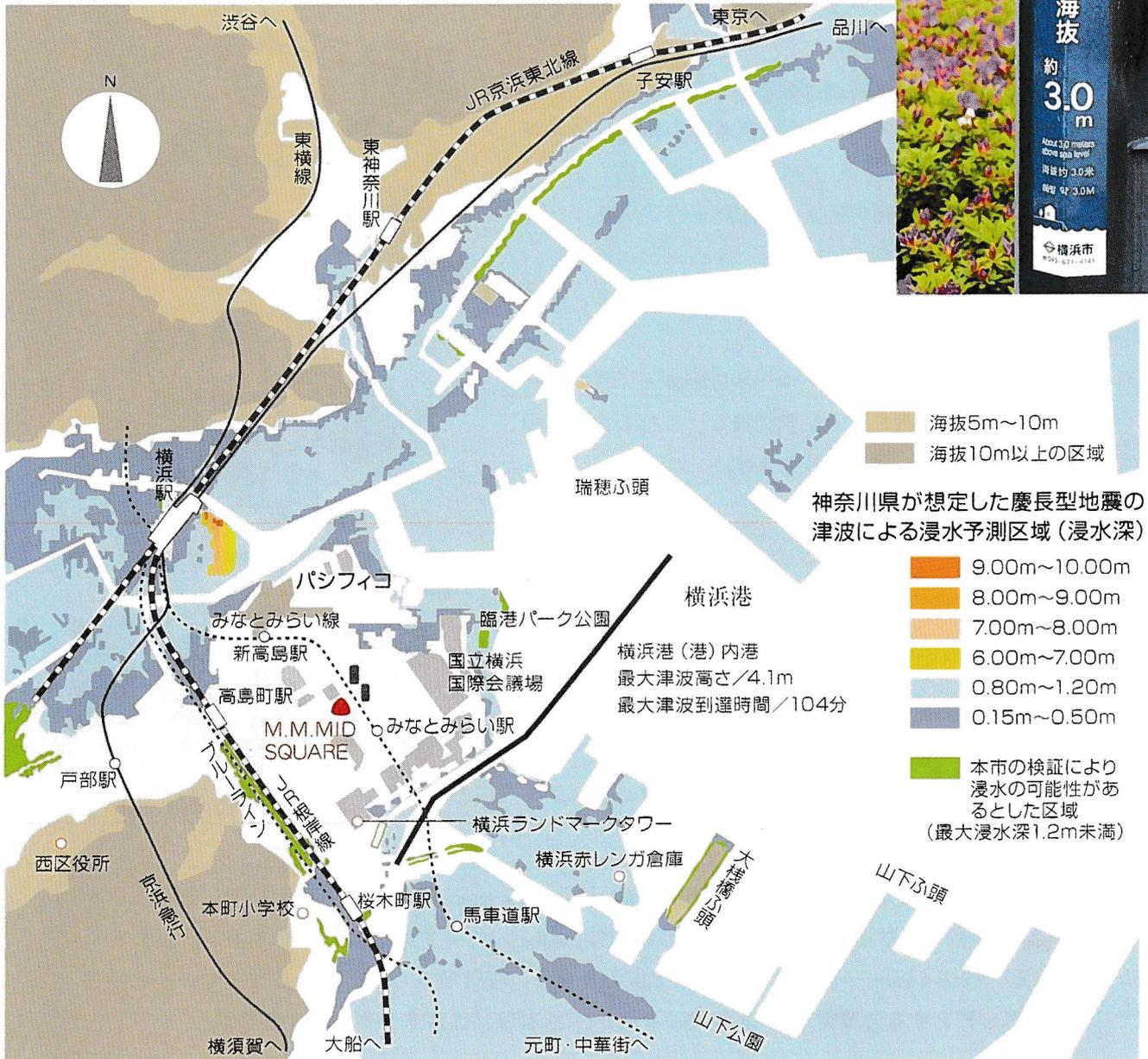




津波そのとき



■これが4.1mの津波浸水域

▶上の図はこの3月、神奈川県津波浸水想定検討部会 (部会長・芝山知也早大教授) が公表した「新たな津波浸水予測図」の模写です。西、中、神奈川区の主要部分で、横浜市が一部修正。さらに分かりやすくするため、建物の配置など一部を補正してあります。

これまでは県、市とも「元禄型関東地震 (1703年、震度6~7、津波高2.1m)」を基準に算出してきましたが、今回は過去最大規模の「慶長型 (1605年、Mw8.5、津波高=最大は鎌倉14.5m)」に置き換えました。その後の土地利用の変化なども読み込むと、横浜港 (内港) は4.1mの津波に襲われ、沿岸部は例外なく“真っ青 (浸水域)”になる——ということです。